第23回　第二地連釣り大会



第二地連新聞

発行責任　第二地連議長
編集責任　第二地連教宣部
東京清掃労働組合　第二地連

2026年10月13日
第106号

２０２６年10月４日（日）、埼玉県さいたま市「武蔵の池」に於いて、第二地連第23回へら鮒釣り大会が、地連組合員・ＯＢも含めて13名が参加し、開催をしました。この間の長雨が心配でしたが、参加者の普段の行いが良く、また多くが晴男であり、当日５時30分の開会式、６時00分の競技開始から納竿（終了）まで、晴れとなりました。昨年は９月の開催で難しい釣りとなったため、この時期に開催をしましたが、昨年と同じ様に難しい釣りとなり参加者は、竿やたなを変え、ハリスの長さや餌の配合の調整等、創意工夫しながら、一枚でも多く竿を絞ろうと頑張っていました。

そして、初心者含めて、竿が絞れるたび一人ひとりが一喜一憂し、支部間更には地連内の交流をして、時間が経つのも忘れて14時30分納竿となりました。

支部でへら鮒釣りをしている組合員は、初心者の方にも優しく教えてくれます。初心者含めて来年は、一人でも多くの参加をお願いします。

地連として、この釣り大会をはじめ、今後もレク活動を開催していきますので、地連組合員の参加をお願いしたいと思います。

（議長：原田　輝高）



【各支部の感想】

◆荒川支部

東海林　一久

第二地連釣り大会に２年ぶり参加しました。

当日は、天候もよく、一日釣りを楽しむことができました。朝６時にスタートし、アタリはあるものの中々釣れず、ようやく11時に１枚目をゲット！その後４枚を釣り上げ合計枚数５枚と釣果を上げることができました。毎回思うのですが、アタリが来ても合わせるのが難しく、ヒットしてもバレてしまうことも多々あり、釣りの難しさを改めて感じました。

荒川支部、今年は１名の参加でしたが、来年は一人でも多く参加できる

よう、釣りの楽しみを伝え、職場の仲間に声をかけていこうと思います。大会に参加された各支部の皆様、ＯＢの皆様お疲れ様でした。

◆台東支部
伊藤　秀平

天候にも恵まれて絶好の釣り日和でした。最初の１枚は釣り始めて直ぐに釣れ、調子よさそうだと思っていましたが、道糸が絡まってしまったことからケチがついたか、４枚が今回の記録でした。前回よりも釣れなかったですが、個人的には満足体験でした。

次回参加時には、今回の記録を越せるよう頑張りたいと思います。

◆文京支部
大林　茂

令和８年１０月４日（日）、埼玉県さいたま市にある「武蔵の池」で第二地連ヘラブナ釣り大会に大林・小林の２名で参加して来ました。

今年は、豪雨で千葉県などでは大きな災害も有り被災者の方には、心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

そのような９月・10月と長雨が続いていましたが、当日は準備をしていただいた役員の方や参加者の皆さんの行いが良かったのだと思いますが、暑くもなく寒くもない素晴らしい秋晴れで絶好の釣り日和になりました。

最近では参加者の高齢化も進み参加人数も減って来てしまいましたが文京支部ではＯＢの方が２名も参加していただき素晴らしい釣り大会になりました。



釣果の方はというとがんばりましたが…！誰にでも簡単に出来て職場の仲間や、地連の仲間とコミュニケーションも取れる企画です。来年は、新しい仲間がもっと増えると良いなと思います。未経験の方も是非、参加してもらえれば良いと思います。

また役員の方々は、当日の釣りもほどほどで集中して釣りも出来なかったと思います。皆さんのお世話や大会の準備ありがとうございました。

◆北支部
阿部　良竜

今回で３回目の参加となる釣り大会。前回は６匹釣れたので今回は１０匹を目標に、期待を膨らませて参加しました。

大会が始まると、１時間もたたないうちに２匹を釣りあげ、出足は好調、「この調子なら10匹は釣れる」と、早くも目標を達成した気分になっていました。

しかし、その勢いは長くは続きませんでした。時間が経つにつれ魚の気配は遠のき、ウキを見つめても反応がありません。「こんなはずでは・・・。」期待は次第に焦りに変わり、気が付くとただ同じ動作を繰り返すだけでした。

残り１時間、諦めの向こう側にいた私に、一緒に参加していた先輩が「見てやるよ」と声をかけてくれました。ご自身の釣りの手を止め、初歩である餌の付け方から、ウキの動きの反応の見極め方、仕掛けの投げ方まで丁寧に教えてくれたのです。知っているつもりだった基本を１つずつ確かめ直す。すると魚が近づく気配を再び感じられるようになりました。餌をつける、ウキの変化を見る、初歩を見直しながら気持ちを立て直し、終了まで粘りました。

結果は３匹で、順位は最下位。前回の記録にも届きませんでしたが僕が今回学んだのは「温故知新」。初心に立ち返る、基本をおろそかにしない、うまくいっている時こそ慢心せず基本に立ち返るという気持ちが今回の大会の収穫でした。



